

## 発刊にあたって

東日本大震災及び長期の避難生活により命を落とされた方々に、あらためて哀悼の意を表しますとともに、被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

平成23年3月11日、震度6強という強烈な揺れと15.5メートルに達したとされる大津波に襲われ、当町は甚大な被害を受けました。その後、追い打ちをかけるように、東京電力福島第一原子力発電所の事故により全町避難を余儀なくされ、21,000余の町民が着の身着のまま故郷を離れてから6年余りの歳月が流れました。

この間、国内外の皆様から頂戴いたしました心温まるご支援の数々、そして全国の自治体、企業、団体の方々から頂いております人的支援に対しまして厚く御礼申し上げます。

町としては、こうした皆様のご支援に支えられながら、少しずつではございますが復旧・復興の歩みを進めてまいりました。浪江町内の復旧に関しましては、まず除染を最優先課題と位置付け、国と協力しながら除染の実施に取り組んでまいりました。除染の進捗により、一部地域を除いた上下水道、主要道路等のインフラ復旧がほぼ完了し、仮設商業施設のオープン、浪江診療所の開設など町内で居住するための環境を、必要最低限ではございますが整備することができ、このたび、3月31日をもって避難指示の一部を解除することを容認することといたしました。この決断は、ふるさと浪江を未来へ引き継ぐための苦渋の決断でありました。「まちのこし」のため、今後も町民の皆様とともに、ふるさと浪江の再生に全力で取り組んでまいります。

本記録誌は、地震・津波による被害のほか、日常生活、学校、生業まで崩壊させて広域分散避難を強いた原発事故という未曾有の複合型災害について、発災直後の初動対応をはじめとした町の復旧・復興に向けた取り組みを記録しております。どんな苛酷な災害に遭っても人間の記憶は時間とともに薄らぎ風化していきます。本記録誌を読むことにより歳月とともに薄れていく記憶を呼び覚まし、語り合い、二度とこのような災害が起これぬよう後世に伝えていくことで、今後の防災行政の一助になれば幸いと存じます。

最後に本記録誌の作成にあたり、貴重な証言や写真などを提供して頂きました皆様に心から感謝を申し上げます、発刊の挨拶といたします。

平成29年3月  
浪江町長 馬場 有



## 浪江町民憲章

1. お互いに協力しあい健康で平和な町をつくりましょう。
1. 産業と教育、文化を重んじ豊かな町をつくりましょう。
1. 楽しく働き自然を愛し清く明るい町をつくりましょう。
1. 親切をもととし愛情の町をつくりましょう。
1. 老いも若きもきまりを守り住みよい町をつくりましょう。

(昭和51年制定)



### 町章

浪江町の「なミエ」を図案化(全体「な」、翼の3枚「ミ」、白地「エ」)し、大円は大人、小円は小人、円全体で和、親睦、融和団結を表現し、翼は1町5カ村の飛躍発展を象徴したものである。



町の木  
松(アカマツ)

風雨雪に耐え垂直に伸びる優雅な姿で、限らない町の発展と町民の長寿、節操を象徴しています。



町の花  
コスモス

荒地にも生き、優しい姿で、町民が優しく、力強く生きることを願い、秩序と調和のある町を象徴しています。



町の鳥  
かもめ

波間に浮く姿はおおらかで、飛んでいる姿は力強く、ゆとりある心、力強く前進する町を象徴しています。

### 浪江町の 人口と 世帯数

平成29年2月28日現在

人口

18,493人

男

8,993人

女

9,500人

世帯数

6,966世帯

# 浪江町のあらし

The history of Namie



明治22年の町村制施行により誕生した浪江村は、明治33年に浪江町となり、昭和28年10月に請戸村・幾世橋村と合併、次いで昭和31年5月1日に大堀村・苅野村・津島村と合併して、現在の浪江町が誕生しました。

## 希望に満ちた新・浪江町の創世記

(昭和31~40年 / 1956-1965)

新しい組織のもとで運営されることになった浪江町。昭和35年に財政再建準用団体の指定を受けたものの2年後には赤字を解消し、この間、水道事業に着手して現在の水道事業の礎を築くなど、インフラ施設、教育施設、社会体育施設等の充実に努めた時期です。昭和37年に定められた町章は、融和団結を表現し、1町5か村の飛躍発展を象徴しています。

昭和31年	1月	浪江町、大堀村、苅野村、津島村の1町3村が合併し、現在の浪江町となる
昭和33年	4月	中野および中浜、両竹の一部を双葉町に編入
昭和35年	5月	チリ地震の津波の影響が請戸にも現れる
昭和36年	5月	浪江町上水道の通水開始
昭和37年	3月	上水道の一部供用開始
	7月	浪江町の町章制定
昭和38年	5月	「なみえ町政だより」創刊(42年に「広報なみえ」へ改称)
昭和40年	11月	町民第一体育館が完成



昭和31年5月、合併当時の浪江町議会議員



旧浪江町庁舎



旧津島村役場

## 高度経済成長が続き、町の基盤整備が進む

(昭和41～50年／1966-1975)

国道6号、114号の全面舗装完了、大柿ダムの建設決定、国土調査事業開始、老人いこいの家「やすらぎ荘」完成、双葉地方広域市町村圏組合発足など、町の地域振興、人づくりの柱として町の核となる施設整備が進められました。昭和46年には台風23号の来襲で大きな被害を受けましたが、その後も町は発展を続け、49年には第一次浪江町町勢振興計画が決定しました。



昭和42年、浪江電話局ダイヤル式自動電話の開通記念式典



昭和48年頃の十日市

昭和41年	9月	浪江小学校校舎が一部焼失	昭和47年	4月	双葉地方広域市町村圏組合が設立
	12月	浪江小学校校舎の新築工事が着工		4月	大堀幼稚園を開設
昭和42年	4月	日立衛生工場・浪江電工株式会社の浪江工場が開所		6月	請戸漁業協同組合事務所が落成
	5月	原子力発電所の誘致を決議		7月	国保津島診療所が開所
昭和43年	7月	大和電線工業株式会社・福島工場が操業を開始		10月	双葉広域消防本部設置、浪江消防署・富岡消防署が開署
昭和44年	3月	浪江町公民館が完成		12月	津島田植踊りが福島県重要文化財に指定
	5月	アルプス電気株式会社・浪江工場が操業を開始	昭和48年	4月	苅野幼稚園を開設
	5月	浪江町商工会館が完成、業務開始		11月	浪江統合中学校校舎・体育館・プール完成、記念感謝祭
	5月	浪江町消防団常備部の新庁舎が完成	昭和49年	3月	第一次浪江町町勢振興計画が決定
昭和45年	2月	請戸小学校の新校舎が落成		4月	幾世橋中学校と請戸中学校が統合、東中学校スタート
	3月	浪江・大堀・刈野の各中学校が浪江中学校に統合		4月	津島保育所が完成
	7月	請戸漁協と浦尻漁協が合併		4月	大柿ダム着工
昭和46年	4月	浪江救護院が開院		8月	老人いこいの家「やすらぎ荘」オープン
	9月	台風23号来襲、被害十数億円	昭和50年	3月	津島公民館が完成
	9月	大堀相馬焼協同組合が設立		7月	苅野幼稚園が完成

## 地域開発と生活の向上を目指して

(昭和51～60年／1976-1985)

財政再建の苦難、昭和55年の冷害・豪雪害を乗り越えて、交通網の整備、文教施設の整備、下水道事業の推進、産業の振興と幅広い事業の充実が町民の皆さんの生活向上につながり、浪江は双葉郡の中心的役割を果たすまでに発展しました。また、「浪江町に香り高い芸術、文化を」との声で浪江町芸術文化団体連絡協議会が発足し、広く町民が豊かな文化生活に浴する足掛かりとなりました。



昭和55年、大柿ダム定礎式



昭和59年、第1回町民駅伝競走

昭和51年	1月	浪江駅舎落成式	昭和56年	4月	浪江町児童館が完成
	4月	東中学校の新校舎が完成		7月	「いこいの村なみえ」オープン
	4月	大堀幼稚園が完成	昭和57年	2月	浪江の木(松)・花(コスモス)・鳥(かもめ)決定
	6月	浪江町民憲章を制定		3月	高瀬野球場・幾世橋グラウンド完成
昭和53年	2月	大堀相馬焼が伝統的工芸品に指定		5月	浪江町芸術文化団体連絡協議会が発足、第1回総会
	4月	福島県浪江保健所が完成	昭和58年	2月	国民体育館の落成式
	4月	エスエス製薬福島工場が操業開始		5月	大堀民芸会館オープン
昭和54年	2月	福祉バス「さちかぜ号」運行開始		9月	第2次町勢振興計画を決定
	2月	公民館請戸分館が完成	昭和59年	2月	第1回町民駅伝競走大会
	3月	公民館幾世橋・苅野分館が完成		3月	統合津島小学校校舎が完成
昭和55年	4月	双葉地方母子寮「白梅荘」オープン	昭和60年	3月	雇用促進住宅が完成
	8月	浪江小学校校舎が完成			
	9月	「80冷害」農作物被害のため冷害対策本部を設置			
	12月	豪雪に見舞われ、8.7億円の被害			

# 昭和から平成へ、町民の地域おこしで活気あふれる (昭和61～平成7年/1986-1995)

浪江町が活気づききっかけとなったのが、昭和63年、町民の手づくりによる祭り「サマーフェスティバルいなみえ」の開催でした。平成元年、台風13号で高瀬川堤防が決壊し、市街地も床上浸水となる大災害となりましたが、同年には第1回ふくしま駅伝で浪江町が町村の部で優勝、浪江小ジュニアバレーボールクラブの県大会優勝、浪江高、浪江中、東中のソフトボール部が相次いで全国大会出場を決めるなど、スポーツ面での活躍も目覚ましいものがありました。



平成元年、台風13号による被害

昭和61年	8月	「8.5豪雨」被害総額9億8228万円	平成4年	1月	浪江日本ブレーキ株式会社の操業開始
昭和62年	4月	福島県沖地震 被害総額7656万円	平成5年	1月	津島診療所内に歯科診療所を開設
	5月	井手山林火災で自衛隊出動を要請		7月	大堀小学校の新校舎が完成
	6月	第1回日山(天王山)山開き		8月	記録的低温により対策本部設置、戦後最大の冷害
昭和63年	7月	国道114号屋曽根バイパスが開通		12月	第3次浪江町長期総合計画を決定
	7月	「サマーフェスティバルいなみえ'88」開催	平成6年	4月	国道114号屋曽根トンネルが開通
平成元年	1月	町民第二体育館・浪江公民館図書室オープン		4月	北部衛生センター焼却炉施設が落成
	4月	加倉運動公園が完成		4月	「マリンパークいなみえ」オープン
	4月	大柿ダム供用を開始	平成7年	2月	役場庁舎建設に着工、安全祈願祭
	8月	台風13号で高瀬川決壊の大災害、被害総額37億円		7月	浪江町国際交流協会が設立
	11月	勤労者総合福祉センター「サンシャイン浪江」オープン		10月	東邦レーヨン株式会社浪江工場が閉鎖
平成2年	4月	浪江町シルバー人材センター発足			
平成3年	1月	国保津島診療所が完成、診療開始			
	3月	幾世橋小学校新校舎が完成			
	4月	防災行政無線システムの運用開始			
	9月	公共下水道の一部供用開始			



平成6年4月、マリンパークいなみえオープン



日山(天王山)山開き

# 新たな視点に立った町づくりの展開

(平成8～22年/1996-2010)

平成8年11月、町のさらなる発展と町民サービスの一層の向上を図るため、役場庁舎を新築しました。常磐自動車道の延伸計画に伴う国道114号拡幅改良など幹線道路網の基盤整備をはじめ、電源開発との共生による産学官構想(企業・大学・研究機関の誘致)、請戸漁港を機軸にした活魚直売施設の新設など新たな町づくり、豊かな自然と調和した自立的な地域づくりの計画を進めました。また、「協働のまちづくり検討委員会」を設けるなどして、町の課題を町民参加型で話し合い解決していく町政を目指しました。



平成11年、天皇・皇后両陛下下行幸

平成8年	4月	ふれあいセンターなみえ運動公園オープン	平成16年	4月	浪江町パークゴルフ協会を設立
	4月	中国興化市と友好都市締結		7月	浪江町観光協会を設立
	11月	役場新庁舎が落成		9月	双葉精器株式会社浪江工場が閉鎖
平成9年	4月	福島県浪江ひまわり荘が落成	平成17年	4月	つしま活性化センターが開所
平成10年	1月	「加倉大橋」が完成、渡橋式		9月	第4次浪江町長期総合計画を決定
	2月	原浪トンネル貫通式	平成18年	3月	「高瀬川・請戸川流域地域づくりの会」発足
	2月	「ふれあいセンターなみえ」オープン		4月	精神障がい者小規模作業施設「コーヒータム」開設
	3月	請戸小学校の新校舎が完成		5月	合併50周年、式典はじめ様々な記念行事を開催
	5月	双葉精器株式会社浪江工場が開所		12月	「観光フェスティバル in 浪江」開催
平成11年	2月	国有林山林火災発生(室原地内、三程林道沿い)	平成19年	1月	「浪江町地域新エネルギービジョン」策定
	2月	浪江町商工会館が落成		1月	津波ハザードマップ策定
	10月	天皇・皇后両陛下下行幸	平成20年	10月	国の原子力総合防災訓練が福島県で初めて実施
平成12年	3月	コスモス保育園、子育て支援センターが落成		11月	なみえ焼そばを通じたまちおこし団体「浪江焼麺太国」が設立
	4月	県道原町浪江線、原浪トンネル開通	平成21年	4月	全国瞬時警報システム(Jアラート)の運用開始
	5月	高齢者住宅「しらうめ荘」オープン	平成22年	2月	「ふるさと浪江会」設立
平成13年	4月	アクセスホーム「さくら」オープン		2月	津島保育所が落成
平成14年	4月	「陶芸の杜おほり」オープン		6月	協働のまちづくり検討委員会が発足
	10月	浪江郵便局舎が落成		11月	「東北四大やきそばサミット in なみえ」開催
平成15年	6月	なみえe-まちタクシー「ぐるりんこ」運行開始			
	8月	浪江町小高町合併協議会を設置			
	10月	相双地区の7漁協が合併、相馬双葉漁業協同組合に			
	12月	新町ふれあい広場が完成			
	12月	浪江町小高町合併協議会を解散			



平成16年、なみえパークゴルフ場落成



平成22年11月、「東北四大やきそばサミット in なみえ」開催